

Museum News

秋田県立博物館ニュース



新着収蔵資料紹介（生物部門）※解説は8頁

ダイオウイカ

目次

表紙・目次 P.1

企画展・特別展紹介

（予告）特別展「発掘された日本列島2016」・・・ P.2

（報告）企画展「博物館の舞台裏で」..... P.4

学芸ノート

（生物部門）みーつけた！ ミドリニリンソウ／
秋田の伝承と植物 タニウツギ・・・ P.5

（民俗部門）百物語の作法 P.6

（博物館活動）あなたの町に県博がやってくる
..... P.7

博物館の風景 P.8

展示予告

平成28年9月22日(木・祝)～10月30日(日)

特別展

発掘された日本列島 2016

秋田では17年ぶりの開催！
とし、北海道・東北地区で
コレがみられるのは秋田だけ！

「発掘された日本列島」展は、全国的に注目された発掘調査の成果を速報する全国巡回展です。平成7年度以来、毎年全国5～6カ所で開催されてきました。今年度は全国5カ所で、新発見考古速報として旧石器時代から近代までの全国22遺跡の紹介をします。昨年度までに全国各地から出土し、注目を集めた貴重な資料が一堂に会します。

また、二つの特集展示、「復興のための文化力ー東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護ー」と「復興の歴史を掘る～自然と共に生きた先人の記録～」で、更に14の遺跡を取り上げます。合わせると36遺跡、総数約750点の展示となり、例年以上に多彩です。

平成11(1999)年以来実に17年ぶりの秋田での開催、しかも北海道・東北地区では唯一の開催です。この貴重な機会をお見逃し無く！

加えて、地域展示「秋田にきたモノとヒト」を同時期に同一会場にて行います。これは、秋田の文化を「外来の」モノとヒトから考える企画です。全国巡回展と併せてお楽しみください。

展示構成

新発見考古速報

特集Ⅰ 復興のための文化力ー東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護ー

特集Ⅱ 復興の歴史を掘る～自然と共に生きた先人の記録～

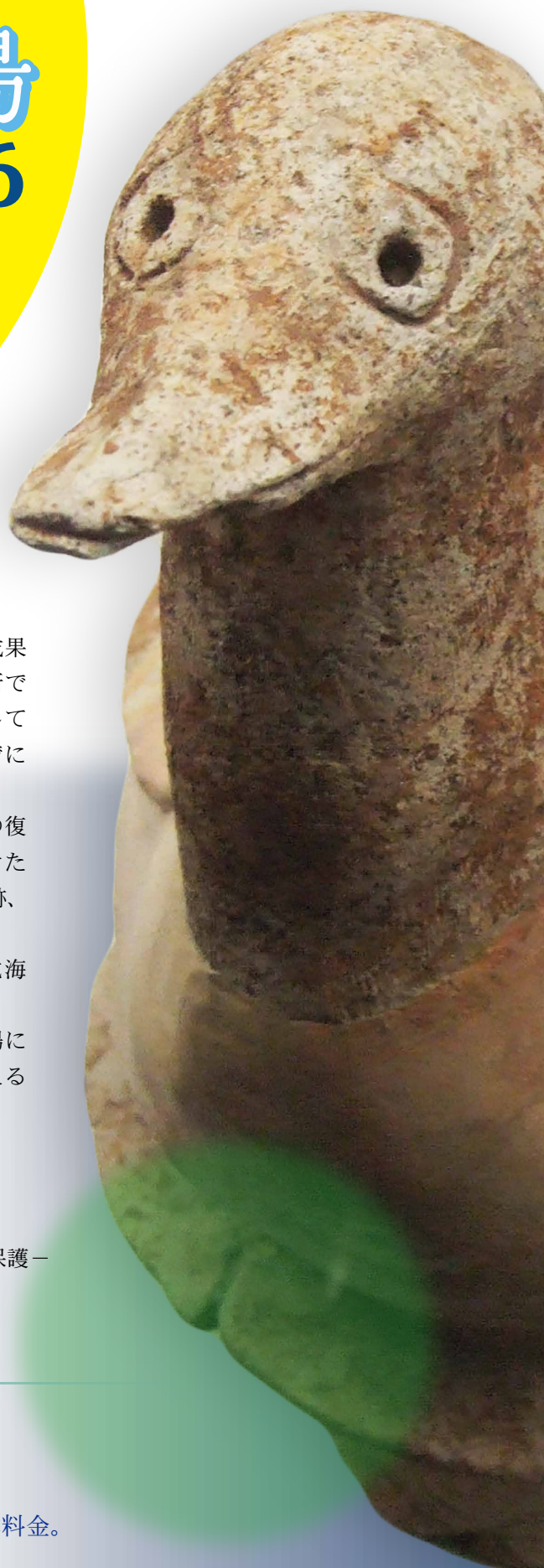
地域展示 秋田にきたモノとヒト

【開館時間】 9:30～16:30

【休館日】 月曜日(10月10日は開館、翌11日休館)

【観覧料】 一般500円(400円) 大学生・高校生300円(240円)

中学生以下無料 ※()内は、20名様以上の団体料金。



見どころ

- 黒曜石鉾脈を発見した縄文人はどうした？〈星ヶ塔黒曜石原産地遺跡・長野県〉
- 一級品の石斧作りで栄えた縄文時代の拠点集落〈六反田南遺跡・新潟県〉
- クニ成立過程の鍵を握る！弥生時代の大規模集落〈岸田遺跡・福岡県〉
- 長年の調査・研究により大規模古墳群の全容が解明された！〈乙訓古墳群・京都府〉
- 巨大な中世居館から出た4～5万枚もの備蓄銭は必見！〈中津居館跡・山口県〉
- 秀吉の造った幻の城、ついに現る！〈伏見城跡・京都府〉
- なぜ黒色火薬が地下室にしまわれたのか？〈旗本花房家屋敷跡遺跡・東京都〉
- 多摩地域最古の国産ビール工場〈豊田旧名主家ビール工場跡・東京都〉 など

■講演会（いずれも**事前予約制**、**参加費無料**。会場は当館**講堂**。）

○開展記念講演会

水ノ江和同氏（文化庁文化財調査官）「列島展2016の見どころ」

日時 **9月22日（木・祝）13:30～15:00**

○特別講演会

渡部育子氏（秋田大学教授）「女帝から読み解く古代の秋田」

日時 **10月15日（土）10:30～12:00**

新野直吉氏（当館名誉館長）「古代環日本海文化と北の海みち」

日時 **10月15日（土）13:00～14:30**

■展示解説会（いずれも**当日受付**、**要観覧料**。会場は当館**企画展示室**。）

○開展記念特別展示解説会

水ノ江和同氏（文化庁文化財調査官）

日時 **9月22日（木・祝）11:00～11:30**

○展示解説会

当館学芸職員

日時 ① **9月24日（土）** ② **10月1日（土）** ③ **10月2日（日）**

④ **10月8日（土）** ⑤ **10月16日（日）** ⑥ **10月29日（土）**

⑦ **10月30日（日）** 毎回**13:30～14:30**

■考古学ワークショップ（**当日受付**、**参加費無料**。会場は当館**学習室**。）

土偶・岩偶レプリカ作り、ミニ・ストーンサークル作り、土器復元・顕微鏡分析体験などを行います。（秋田県埋蔵文化財センター共催）

日時 **10月10日（月・祝）10:00～15:00**

*特別展期間中は「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ！」（クイズラリー）も実施します。詳しくは当館わくわくたんけん室まで。



鬼瓦

奈良県中山瓦窯跡出土。奈良時代。高さ40cm。平城宮最初期のデザイン。後世の鬼瓦とは、どのように異なっているでしょうか。



耳より情報！

会期中、先着500名の親子観覧者には、当館手作りの特製考古ストラップ全4種類のうち、お好きな一つをプレゼントします。

また、展示解説会の参加者のうち、毎回5名の方に抽選で岩偶・土偶レプリカをさしあげます。

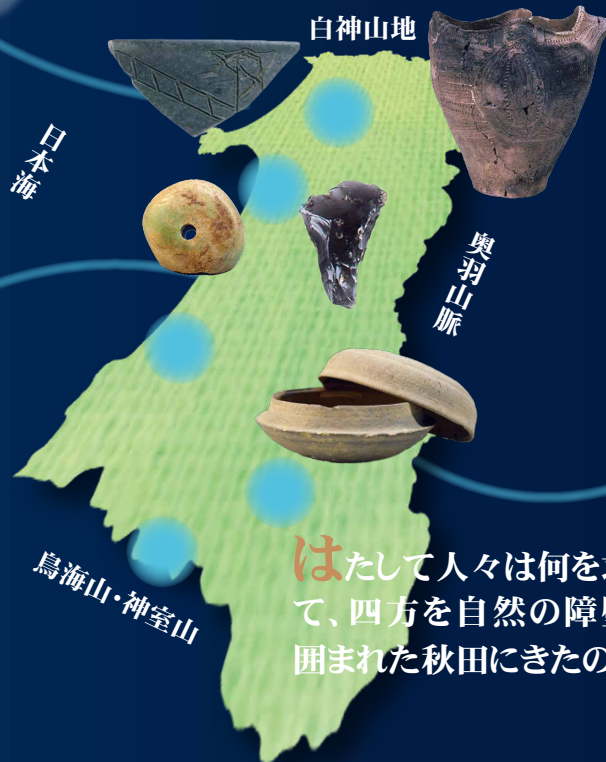


地域展示

秋田にきたモノとヒト

水鳥形埴輪

京都府恵解山古墳出土。古墳時代前期。高さ50cm。愛嬌のある顔立ちが特徴的。これは前方後円墳の少し変わった部分から出土しています。



はたして人々は何を求めて、四方を自然の障壁に囲まれた秋田にきたのか？

平成28年4月23日(土)～6月19日(日)

企画展 博物館の舞台裏で

見える展示の见えないしくみ

秋田県立博物館には、秋田の自然や文化にまつわる資料がたくさん展示されています。博物館に収蔵されている資料16万件のうち、展示されているのは1割にもなりません。ほとんどの資料は収蔵庫に収められ、静かに出番を待っています。

博物館の職員は、膨大な資料を後世に残すためにきちんと管理を行い、また様々な研究を行って資料から情報を抽出し、その成果を展示や博物館教室などで報告しています。

この展示では、博物館の舞台裏で行われている、普段見ることができない学芸員の仕事や資料にまつわる事柄、博物館に関わる人たちを紹介しました。

展示構成

① 博物館とは？

博物館について、秋田県立博物館について

② 博物館のお仕事

資料について、展示について
博物館教室、出張展示

③ 学芸員のお仕事

各部門の目的、活動内容、主な収集資料
代表的な仕事や使用する道具の紹介

④ 博物館にかかわる人達

友の会、ボランティア、関係団体について



寄贈された資料



展示ケースの展示



朽ちかけた資料



展示準備



資料でいっぱいの収蔵庫



仕事道具



ボランティア活動

参加体験
イベント

○「舞台裏ガイドツアー」

普段、入ることのできない博物館の裏側を、職員の解説つきで案内しました。何気なく見ている展示や資料の裏話にもふれました。



○「学芸員の仕事を体験しよう」

化石のクリーニング、薄葉紙の取り扱い、綿布団作り、着物の見せ方・たたみ方、など学芸員が行っている仕事の一部を展示室で実践して、来館者にも体験してもらいました。



生物部門の重要な仕事のひとつがフィールドワークです。特定の地域のみではなく、県内各地の自然を調査します。すると、時に珍しい事象に出会うことがあります。また、秋田ならではの伝承を覚えていることで、秋田の人々と植物との暮らしぶりを想像して、ひと味違う見方をすることもできます。ここでは、その一例を紹介します。

みーつけた！ ミドリニリンソウ

春の訪れを告げるニリンソウ。ニリンソウのように葉や茎は早春に現れ、他の植物の葉が茂る初夏には枯れる植物の総称を、春の短命なものの意味で、スプリング・エフェメラルズといいます。白い花は一つ一つが可愛らしく、群生している風景も美しいものです。そんなニリンソウの群生地で見つけた緑色もしくは緑色と白色の混ざった花を見つけたことはありますか？このようなニリンソウをミドリニリンソウとよび、品種に分類する人もいます。春の山を歩いていたら、様々な色、形のミドリニリンソウに出会いました。一つ見つけると、その周辺にもぼつりぼつりと姿を見つかることができました。

ニリンソウの白い花びらのように見える部分は、萼（がく）です。ニリンソウは2輪ではなく1輪や3輪の花をつけたりと、変化の起こりやすい植物です。群生するニリンソウを見つけたら、四つ葉のクローバーを探すように、是非ミドリニリンソウを探してみてください。



ニリンソウ：
Anemone flaccida (二輪草)

山地の林縁や林床などに生える多年草。二輪草という名称は、花茎が2本出て2輪の花をつけることによる。



緑色と白色が混ざった花



緑色と白色の花のペア



緑色の花が2輪



タニウツギ：
Weigela hortensis (谷空木)

北海道の西部と本州の日本海側に分布する落葉低木。山の斜面などに生える。桃色の花。葉は対生し、楕円形～卵状楕円形。裏側に白い毛が密生する。長さ約3cmほどの、ろうと形の桃色の花をつける。

秋田の伝承と植物 タニウツギ

秋田では5月の下旬に花盛りを迎えるタニウツギ。次のような多くの呼び名（方言名）や言い伝えがあり、タニウツギが人々に身近であったことがうかがえます。

～方言名～

- がさ（がさき、がんじゃ、がんじゃのき、がじゃばな、がじゃしば等）：「木の幹ががさがさした触感だから」や「かんざしにする花だから（古い時代に、草木の花や枝などを髪に挿したと言われる）」などの説がある。
- いわしばな：「昔オオバイワシ*の出る頃に開花したから。」という説がある。これには、イワシバナという名前が生臭い（実際は魚のにおいではありません）ので、仏壇に飾らないという話もある。（*オオバイワシとは、マイワシのやや大型のもの）
- たうえざくら：「田植えをする頃に咲くサクラに似た花だから。」

～言い伝え～

「火事になるから家にいれない（実際燃えやすい）」、「虫がつくから家の中には入れない（秋田の姫様がこの花をとって遊び、付いていた毛虫で体中がかゆくなった）」

～利用法～

「木を刈敷（かつちき、かつき）と称して、苗代の肥料にする」「葉を餅に巻き食べる」

（生物部門：浅利絵里子）

百物語の作法

夏も近づくと怪談話がテレビや雑誌を賑わせるようになってきます。1話だけでも怖いのですが、本格的に怪談を語る会に百物語というものがあります。百物語は、もとは物語そのものを表す言葉でしたが、江戸時代頃から語りの場を示す言葉になりました。話の数だけろうそくを灯し、1話語り終えるごとにろうそくの火を1本ずつ消していくやり方について、行ったことはないものの聞いたことがあるという方はいらっしゃるのではないのでしょうか。

そもそもこの百物語を語る会というものはいつ頃から行われているのでしょうか。

一説には、戦国時代になって武士の鍛錬のために行われたのがはじまりといわれていますが、江戸時代になり、平和な世の中になると、怪談話を語る会に娯楽的な要素が加わるようになりました。百物語の会で語られた話がのちに小説などにまとめられ、江戸時代中期頃から『〇〇百物語』と称した怪談話集が数多く出版されるようになります。秋田県内にも『久保田城下百物語』（刊行年等不明）という絵本が残されていますが、この話は武士たちが百物語を計画したことを聞きつけて、さまざまな妖怪が逆に武士たちを脅かしに行く、という筋立てになっています。

秋田県内にも百物語を語る会について江戸時代の記述があります。人見蕉雨が寛政年間（18世紀後半）に記した『黒甜瑣語』には、室町幕府第8代將軍足利義政（15世紀後半）の頃にもてはやされていた百灯物語の作法について、次のように記しています。

部屋を真っ暗にし、あまのじゃく、狐、猿の掛け軸と千妖百鬼の書かれた屏風を一双上座にかかげる。青藍紙を張った丸行灯を百灯つけ、客は七人で刀を持たないで集まる。会は亥の三つ（午後11時頃）にはじまり、丑の三つ（午前2時頃）に終わるようにする。九十九話語った後、一灯のみ残った時に妖怪が自然にあらわれるという。また、決まった呪文を唱えると妖怪はまた消える。

人見蕉雨は「今の世の中では荒唐無稽と思うだろうが、戦国の世は殺伐とした世の中であつたので、このようなことも多くあつたのだろう」と結んでいます。この後には蕉雨が聞いた横手城中で行われた百物語の会について記しています。物語が終わった後、どん、と何かが急に落ちてきた。夜が明けて見ると、梁の上に吊っておいた古い鎧

が天井を突き破って落ちてきたことが分かったということで、江戸の世の中ではなかなか本物の妖怪にお目にかかることはなかったようです。

百物語を語る会は明治時代にも東京や大阪などの都市部を中心に盛んに行われています。季節は夏に限らず、秋や師走にも行われており、場所は寺院や遊郭などが使われました。会はますます趣向をこらしたものになり、こわい話を語るだけでなく、参加者が幽霊や妖怪の仕掛けのある場所を通り、証拠を残していくなどの決まりがありました。最後は精進落としと称した宴会になりますが、料理も、「血染めの雪」と称した山かけまぐろ、四谷怪談の有名な場面、戸板返しにちなんだカマボコ料理などいろいろ工夫がこらされており、小説家の泉鏡花や新派の俳優、俳人などが良く参加していました。

これらの怪談会をまねて、秋田市内でも明治42年9月4日に寺町眞鏡寺で怪談会が行われています。参加者は12名。暮れ七つ（午後4時頃）に仏堂の傍の一席に集合したということです。一同車座になった真ん中に線香をともした香炉を置く。明かりはろうそく1本のみ。一話話し終わると仏鈴をチンと鳴らして南無阿弥陀仏を唱える。丑三つ時頃になり、会長が閉会を告げた途端、何かキューッという音がして皆ぞっとした。後から分かったことですが、この音は会長が仕込んだゴム人形だったということです。

現在は夜も明るくて、妖怪たちもなかなか出にくい世の中になっていますが、たまにはこのように趣向をこらした会をもよおして、長い夜をたのしみたいものです。（民俗部門 丸谷 仁美）



写真 『久保田城下百物語』（秋田県公文書館蔵）部分

あなたの町に県博がやってくる

ー秋田県立博物館 出張展示事業についてー

出張展示とは？ 博物館から遠い地域にお住まいの方や日頃来館される機会の少ない方のため、秋田県博物館等連絡協議会加盟館等の展示施設を使用して展示を行う事業です。平成26年度から本格的に開始しました。

出張展示は？ 平成26年度は6施設、27年度は5施設で行いました。また今年度は7月1日の時点で既に5つの施設で開催し、今後は4つの施設で計画しています。展示テーマは、出張展示を希望する館職員と話し合っていて決めていきます。

以下、開催例のいくつかを紹介しましょう。

バラエティに富む出張展示

「大地と人のモノガタリーおれとカメラとラジカセー」

平成26年10月から11月にかけて男鹿市ジオパーク学習センターで開催。同市では「第29回国民文化祭・あきた2014」に伴い、ジオパーク関連の展示を企画。その中でこの展示の趣旨は「大地だけでない人のモノガタリを」にあり、会期日数30日で600名を超える方にご覧頂きました。



出張展示に際し、男鹿市教委が独自に集めた生活用品。展示品は博物館と希望館が協力して充実を図る。

「ゴ本！といえはくすり展～秋田のミニくすり博物館～」



▲展示準備中の職員

平成27年3月から5月にかけて開催。展示会場が秋田県立図書館で、後援企業が（株）龍角散だったことからこのタイトルに決定。

6,100名を超える方にご覧頂きました。

「春の小さな鉄道展 in 能代エナジウムパーク」

「能代火力発電所は、石炭を燃料としてまして」の館長さんの一言から、石炭つながりで鉄道展を開催。平成27年のゴールデンウィークの前後10日間で5,000名近くの方にご覧頂きました。

かつて東能代駅には機関区が置かれていたことから、駅構内には蒸気機関車の向きを変える転車台があります。このため、平成24年と26年に運転されたSL列車の終着駅は東能代駅でした。この展示を開催する直前、秋田で運行されたSL列車のヘッドマークが博物館の収蔵品になったことから、お目見えの絶好の機会になりました。



▲SL列車のヘッドマークは鉄道ファン注目の資料

あなたの町に県博がやってくる



▲鎧兜とコアラのコラボ！

今年5月には横手城天守閣でコアラ（はく製）の展示をしました。7月から8月にかけては、仙北市立田沢湖図書館で貝の展示を行います。

秋田県立博物館は、これからもフットワーク軽く楽しい（意表をついた）出張展示を行います。

（展示・資料班
畑中 康博）

博物館の風景

博物館では調査研究や資料収集、展示、教育普及などさまざまな活動をおこなっています。

展示替えコーナー



自然可変展示
「ダイオウイカはなぜ秋田にきたのか」



人文可変展示
「秋田の金工—鐺にみる技と美」



月替わり展示「古代にドキドキ」



地層と化石の観察会



「発掘された日本列島2016」を
楽しむ方法



楽しいしぼり染め中級コース

博物館教室



すごいパパになろう！

イベントその他



自動演奏ピアノ演奏会



ミュージアムトーク



友の会総会

表紙解説 2016年2月13日、にかほ市象潟町小砂川の海岸に漂着していた個体です。長さは3.22m（切れた触腕の部分の考慮すると推定で約5m）、重さが114kgあります。現時点でダイオウイカが確認されたのは、秋田が最北で、いわば北限のダイオウイカと言えます。現在、ホルマリン液浸標本にして自然展示室で常設展示しています。